



J-B ブルーシリコン J-B Weld Company, LLC

安全データシート - JIS Z 7253 : 2019 準拠

Version No: 3.00.0.1

発行日: 2025.10.01

セクション1 化学品及び会社情報

製品に関する情報

製品名(日本国内)	J-B ブルーシリコン
品番	7047
同義語(米国品番)	31316 (Blue Silicone Gasket Maker & Sealant)
外観	
JAN	4517062 002447

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	自動車部品の接合面のシーリング剤(耐油性なし)
シリコンの反応副生成物	アセトン

供給者の詳細	製造者	供給者(アジア総代理店)
供給者の会社名称	J-B Weld Company, LLC	株式会社 隆成コミュニティ
所在地	400 CMH Road Sulphur Springs TX 75482 United States	千葉県市原市辰巳台西一丁目2-10
電話番号	903-885-7696	0800-805-6655
FAX番号	903-885-5911	0436-26-6655
ホームページ	www.ibweld.com	https://ryusei-usa.com/
e-メール	info@jbweld.com	contact@ryusei-usa.com

セクション2 危険有害性の要約

化学物質又は混合物の分類

健康に対する有害性	危険有害性	区分
	急性毒性	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性または皮膚感作性	区分に該当しない
	生殖細胞変異原性	区分に該当しない
	発がん性	区分2
	生殖毒性	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(血液、呼吸器)

環境に対する有毒性	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(呼吸器)
	吸引性呼吸器有毒性	区分に該当しない
	水生環境有毒性(急性)	区分3
	水生環境有毒性(慢性)	区分に該当しない

GHSラベル要素

絵表示:	
注意喚起語	危険

危険有害性情報

H225	引火性の高い液体および蒸気
H312	皮膚に接触すると有害
H314	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
H318	重篤な眼の損傷
H351	発癌のおそれの疑い
H370	臓器の障害(血液、呼吸器)
H372	長期にわたる、または反復暴露による呼吸器の障害
H402	水生生物に有害

注意書き: 安全対策

P233	容器を密閉しておくこと
P260	粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入をしないこと
P264	取扱後はよく手を洗うこと
P270	この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと
P273	環境への放出を避けること
P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること

注意書き: 応急措置

P301+P310+P331	飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと
P302+P352	皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと
P304+P340	吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
P305+P351+P338	眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
P308+P313	曝露または曝露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること
P333+P313	皮膚刺激又は発しんが生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること
P337+P313	眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること
P362+P364	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること

注意書き: 保管(貯蔵)

--	--

注意書き: 廃棄

P501	内容物/容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って、認可を受けた有害または特別廃棄物処理場に廃棄すること
------	--

セクション3 組成および成分情報

物質

混合物の組成については、以下のセクションを参照してください

混合物

成分名	CAS番号	官営公示整理番号		%[重量]
		化審法	安衛法	

重質炭酸カルシウム	1317-65-3	1-122	情報なし	<40
アルミニウム (金属)	7429-90-5	情報なし	情報なし	<10
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	1-548	(1)-548	<10
酢酸	64-19-7	2-688	(2)-688	<1
※具体的な化学物質の特定、組成濃度については企業秘密とします。				

セクション4 応急措置

必要な応急措置の説明

吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> ・気分が悪い時は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること ・気分が悪い場合は医師の診断、手当てを受けること。 <p>急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肺障害の症状 ・咽頭痛、咳、灼熱感、頭痛、めまい、息切れ、息苦しさ
皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none"> ・直ちに汚染された衣類をすべて(履物を含む)脱がせること ・皮膚に付着した部分を多量の流水と石鹸で洗浄すること ・汚染された衣類は再着用前に洗濯すること <p>急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚炎の症状 ・痛み、発赤、水疱、皮膚熱傷
眼に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> ・直ちにまぶたを指でよく開いてきれいな流水で15分～20分間洗浄すること ・コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す事、その後も洗浄を続けること ・ただちに医師に連絡すること <p>急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発赤、痛み、重度の熱傷、視力喪失
飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> ・口をすすぐこと ・飲み込んでしまった場合、意識がある場合は少量の水を飲ませること ・嘔吐すると危険な場合があるので、気分が悪くなったらそれ以上の水は飲ませないこと ・気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること <p>急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腹痛、灼熱感、下痢、ショック/虚脱、咽頭痛、嘔吐
最も重要な兆候及び症状	蒸気を吸入すると、肺水腫を引き起こすことがある。胃腸管に影響を与え、胸焼け、便秘を含む消化障害を生じることがある。
医師に対する特別な注意事項	肺水腫の症状は 2～3 時間経過するまで現われない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。医師または医師が認定した者による適切な吸入療法の迅速な施行を検討する。

セクション5 火災時の措置

消火活動に関する情報

消火剤	<ul style="list-style-type: none"> ・消火用泡 ・消火器用消火薬剤 ・炭酸ガス ・乾燥砂類
使ってはならない消火剤	水噴霧、棒状放水

特有の危険有害性

火災の際に避けるべき条件	情報なし
---------------------	------

消火活動に関する情報

特有の消火方法	<ul style="list-style-type: none"> ・危険でなければ火災区域から容器を移動する ・消火を行う者は、呼吸装置を備えた保護衣および保護手袋を着用すること
----------------	---

火災及び爆発の危険性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃焼時、以下の燃焼生成物を生成することがあります： ・ 一酸化炭素(CO) ・ 有毒ガスを放出することがある ・ 腐食性ガスを放出することがある
-------------------	---

セクション6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

セクション8を参照

環境に対する注意事項

セクション12を参照

封じ込め及び浄化の方法及び機材

小規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険でなければ漏れを止め、漏出区域から容器を移動する ・ 付近の着火源となるものを速やかに除く ・ 漏洩物は不活性物質で吸い取り、化学品廃棄容器に入れること
大規模漏出の場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険でなければ漏れを止め、漏出区域から容器を移動する ・ 付近の着火源となるものを速やかに除く ・ 多量の場合、人を安全な場所に退避させる ・ 下水道、水路、地下室、または密閉された場所への侵入を防止する ・ 漏洩物は不活性物質で吸い取り、化学品廃棄容器に入れること
他の情報	データ無し

個人用保護具に関する情報については、セクション8をご参照ください

セクション7 取扱い及び保管上の注意

安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じてセクション8の記載に従い、保護具を着用する ・ この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと ・ 換気の良い場所でご使用ください ・ 飲食・喫煙前、取扱後はよく手を洗うこと
-----------------	---

混触危険性を含む、安全な保管条件

適切な保管条件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金属缶またはドラム缶 ・ 製造者が推奨する容器を使用すること ・ 換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、飲食物から離して保管する ・ 開封した容器はきちんと閉め、漏出がおこらないようにして保管する(締めすぎてキャップを破損しないように注意する)
避けるべき保管条件	アルカリ、酸、酸化剤

セクション8 ばく露防止及び保護措置

管理パラメーター

制限値のある物質のみ以下の表にまとめました。

管理濃度

物質名	CAS	管理濃度	単位
アルミニウム (金属)	7429-90-5	E=3.0 / (1.19Q+1)	E:管理濃度 (単位mg/m ³) Q:当該粉塵の遊離けい酸含有率
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9		

許容濃度

成分	CAS	物質名	TLV-TWA※	注記	出典
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	炭酸カルシウム	10 mg/m ³	総粉塵	※11
アルミニウム (金属)	7429-90-5	第1種粉じん: アルミニウム	0.5 mg/m ³	吸入性粉塵	※15
			2 mg/m ³	総粉塵	※15

		金属アルミニウム及び不溶性化合物	1 mg/m ³	吸入性粒子状物質	※11
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	結晶質シリカ	0.03 mg/m ³	吸入性粉塵	※15
酢酸	64-19-7	データ無し	25 mg/m ³	データ無し	※15
		データ無し	10 ppm	データ無し	※11
※ばく露限界値 / 時間加重平均 「通常の1日8時間、週40時間の時間加重平均であって、ほぼ全ての労働者が、その濃度に毎日繰り返し曝露されても、その職業人生を通じて健康に悪影響を受けることがないと考えられる」※11					

緊急ばく露限度

成分	CAS	IDLH ※	出典
データ無し			
※IDLH(脱出限界濃度):生命および健康に対して急性の有害影響を及ぼす濃度			

職業曝露バンディング

成分	CAS	職業曝露バンド評価	職業曝露帯域制限	出典
データ無し				
職業曝露バンディングは化学物質の効力、及び曝露に関連する有害な健康上の結果に基づいて特定のカテゴリまたはバンドに化学物質を割り当てるプロセスです				

ばく露防止策

適切な工学的管理	作業により粉塵、蒸気、またはミストが発生する場合は、作業場の囲い込み、また作業環境の粉塵汚染濃度を職場曝露限界未満に保つため、排気、通風装置・換気装置の設置が必要となります
----------	--

保護具

眼/顔面の保護	・リスクアセスメントの結果、必要な場合は安全ゴーグル着用すること ・接触の可能性がある場合、必ず化学保護メガネを着用すること
皮膚の保護	以下の手/足の保護具を参照してください
手/足の保護	・化学製品を取り扱う際は、耐化学用の不浸透性の保護手袋（EVOH※2、フタルゴム、フッ素ゴム製のもの）を着用すること※1
身体の保護	以下の保護具を参照してください
他の保護	情報なし
呼吸器の保護	危険性と曝露の可能性に基づき、適切な基準又は認証を満たすマスクを使用すること

※1 厚生労働省のHPにて開示されている「皮膚等障害化学物質(労働安全衛生規則第594条の2(令和6年4月1日施工)」及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質リスト」にて皮膚刺激性有害物質に指定されておりますので、この物質を取り扱う際に使用する手袋は化学防護手袋である必要があります。その着用は2023年4月より努力義務、2024年4月から義務化されてますので、必ず耐透過データのある物からお選び下さい。

※2 EVOH : エチレンビニルアルコール共重合体

セクション9 物理的及び化学的性質

物理的および化学的性質に関する基本情報

外観	青のペースト	蒸気密度 (大気 = 1)	データ無し
物理的状態	非流動性ペースト	比重 (水 = 1)	1.01 ~ 1.08
臭い	酢酸臭	自然発火温度(°C)	データ無し
pH(製品)	データ無し	熱分解温度(°C)	データ無し
融点/凝固点(°C)	データ無し	粘度	データ無し
沸点/沸騰温度(°C)	データ無し	分子量(g/mol)	データ無し
引火点	93.3°C (密閉カップ)	味	データ無し
蒸気圧(kPa)	1.2 ~ 1.5	爆発性	データ無し
水溶性	まざらない	VOC含有量	データ無し

セクション10 安定性及び反応性

反応性	セクション7 参照
化学的安定性	製品は安定しており、保管条件下では安定です
危険有害反応可能性	通常の貯蔵及び仕様条件下では有害な反応は起こらない

避けるべき条件	セクション7 参照
混触危険物質	セクション7 参照
危険有害な分解生成物	セクション5 参照

セクション11 有害性情報

毒物学的影響に関する情報

急性毒性

成分名	CAS番号	経路	試験対象	毒性	出典	区分
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	経口	ラット	LD50: 6,450 mg/kg	※11	区分に該当しない
		経口	ラット	LD50: 5,000 mg/kg	(類似品より推定)	区分に該当しない
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	経口	ラット	LD50: >3,160 mg/kg (親水性焼成シリカ)	※12	区分に該当しない
			ラット	LD50: >3,300 mg/kg (疎水性焼成シリカ)	※4 ※7	区分に該当しない
			ラット	LD50: >5,000 mg/kg (疎水性焼成シリカ)	※4 ※7	区分に該当しない
			ラット	LD50: >5,110 mg/kg (親水性沈降シリカ)	※4 ※7	区分に該当しない
		経皮	ウサギ	LD50: >2,000 mg/kg (シリカゲル)	※4 ※7	区分に該当しない
			ウサギ	LD50: >5,000 mg/kg (沈降シリカ)	※4 ※7	区分に該当しない
		吸入: 粉塵及びミスト	ラット	LD50: >2.08 mg/L 4h (親水性シリカ)	※4 ※7	区分に該当しない
				LD50: >1.65 mg/L 4h (疎水性シリカ)	※4	区分に該当しない
			LC50: >2.22 mg/L 4h (疎水性シリカ)	※4	区分に該当しない	
酢酸	64-19-7	経口	ラット	LD50: 3,310 mg/kg	※5	区分に該当しない
				LD50: 3,530 mg/kg	※5	区分に該当しない
		経皮	ウサギ	LD50: 1,060 mg/kg	※5	区分4
		吸入(蒸気)	ラット	LCLo = 16,000 ppm	※5	区分に該当しない

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	ウサギ 500 mg/24h - 中程度	※11	区分3
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、刺激性はみられなかったとの報告がある。またウサギに24時間適用した試験において、いずれも刺激性はみられなかったとの報告がある。以上より、区分外とした。	※4 ※7	区分に該当しない
酢酸	64-19-7	ウサギあるいはモルモットを用いた試験において、刺激性の程度はばく露の濃度と時間に依存し、特に一定以上の濃度では重度の熱傷と痂皮形成が観察されている。かつ、EU分類ではC;R35(GHS 区分1に相当)であることから、区分1とした。	※5	区分1

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	ウサギ 750 µg/24h - 強度の刺激	※11	区分2
アルミニウム (金属)	7429-90-5	本物質のダストは眼に軽い炎症を起こす可能性があるとの記載がある	※22	区分4
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	ウサギ 25 mg/24h - 軽度の刺激 ウサギを用いた眼刺激性試験において、刺激性はみられなかったとの報告がある また、形態の異なる沈降シリカ又は非結晶性シリカをウサギに適用した試験の報告が複数あり、眼刺激性はみられなかったとの報告や、軽度の結膜炎、軽度から中等度の結膜発赤、角膜混濁がみられたとの報告があるが、いずれの症状も回復性であったとの報告がある。以上より区分2とした。	※1 ※4 ※7	区分2

酢酸	64-19-7	ウサギ眼に氷酢酸を適用直後に破壊的損傷を生じたこと、別の試験で永続的角膜損傷を伴う重度の刺激性を示したこと、ヒトで誤って眼に入れてしまった後直ちに洗浄したにも拘らず角膜混濁や虹彩炎を起こし、上皮の再生に何ヶ月も要し特に角膜混濁は永続的であったとの症例報告もあり、区分1とした。	※5 ※10	区分1
----	---------	--	--------	-----

呼吸器感受性または皮膚感受性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
酢酸	64-19-7	酢酸による惹起に陽性反応を示した気管支喘息の患者や、アルコールまたは酢酸に曝露されI型過敏性反応類似の反応を呈したヒトが報告されている。またエタノールにアナフィラキシー反応と酢酸に即時型アレルギーを示したとの報告もある。ヒトに対しての報告や動物による試験報告などはなくデータ不足のため分類できない。	※5 ※22	分類できない

生殖細胞変異原性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	in vivoでは、経口投与によるラットの優性致死試験、経口投与によるラット骨髄細胞の染色体異常試験で陰性、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、染色体異常試験で陰性、哺乳類培養細胞の小核試験で弱陽性である	※4	区分に該当しない
酢酸	64-19-7	in vivoの試験結果がないので分類できないとした。in vitroでは変異原性試験、染色体異常試験でいずれも陰性の結果が報告されている。	※5	分類できない

発がん性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
アルミニウム (金属)	7429-90-5	本物質ばく露による呼吸器機能障害、或いは呼吸器の非腫瘍性病変を示唆する報告はあるが、発がん性に関する報告はなく、ATSDR(米国毒性物質疾病登録庁)、ACGIHはA4(発がん性物質として分類できない物質)に分類している。以上より、本項は分類できないとした。	※11	分類できない
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	本CAS番号が示す物質群は二酸化ケイ素の全形態が包含される。すなわち、本物質群には結晶質シリカが含まれるが、製品の性質上、空气中にシリカが飛散する可能性は低いと考えられる為、区分2とする。	※4	区分2
酢酸	64-19-7	酢酸・無水酢酸生産工場の大規模な疫学調査が実施され、労働者1359人のコホートで癌による死亡を評価の結果、前立腺がんでの増加(6例)を除き全ての癌による死亡が減少した。また前立腺がんによる死亡の解釈についても困難と結論されているが、いずれにしてもデータ不足のため分類できない。	※5	分類できない

生殖毒性

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
アルミニウム (金属)	7429-90-5	本物質ばく露による生殖毒性に関する情報はなく、データ不足のため分類できない。なお、塩化アルミニウム、又は乳酸アルミニウムを妊娠ラットの妊娠期間中、又は新生児ラットの生後5-17日に経口経路で投与した試験では、新生児の神経行動発達遅延、或いは行動量の減少がみられたとの報告があるACGIH、ATSDR。	※11	分類できない
酢酸	64-19-7	ラットでのばく露試験およびマウスに経口投与した試験において影響あるいは子の発生に対する悪影響の記載はない。しかし、交配前からのばく露による親動物の性機能および生殖能に及ぼす影響に関してはデータがないので分類できない。	※5	分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
-----	-------	-----	----	----

アルミニウム (金属)	7429-90-5	本物質は気道刺激性がある。ヒトでは、本物質を吸入すると、塵肺 (アルミニウム肺症) のような肺の障害を引き起こすことがある。実験動物では、ラットの物質 吸入単回ばく露により、肺機能に変化はなかったが、気管支肺胞洗浄液中の酵素及び細胞学的変化がみられ、肺及び肺門リンパ節の小肉芽腫の発生の報告がある。これらは区分1に相当する用量でみられたため、本物質は吸入ばく露で呼吸器への影響があり、区分1 (呼吸器) とした。なお気道刺激性は呼吸器への影響に含めた。	※5、※11、※22	区分1(呼吸器)
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	シリカゲルは気道刺激性があるとの報告から、区分3(気道刺激性)とした。	※4	区分3(気道刺激性)
酢酸	64-19-7	ヒトで氷酢酸または大量の酢酸を摂取後、播種性血管内凝固障害、重度の溶血、虚血性腎不全を起こした症例報告が複数あり区分1 (血液) とした。また、ヒトで吸入ばく露による鼻、上気道、肺に対する刺激性の記載、「ヒトが蒸気を吸入すると気道腐食性、肺水腫が見られることがある」との記述があり、実際に石油化学工場での事故によるばく露で気道閉塞と間質性肺炎を発症した報告があるので区分1 (呼吸器系) とした。	※5	区分1 (血液、呼吸器)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

成分名	CAS番号	データ	出典	区分
アルミニウム (金属)	7429-90-5	ヒトについては、疫学調査において、高濃度のダストのばく露で肺機能への影響がみられ、胸部X線検査で肺の下部に小さく不規則な結節が報告されている。実験動物において、本物質を用いた試験の報告はない。したがって、区分1 (呼吸器) とした。	※11	区分1(呼吸器)
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	ヒトにおいて、石英、クリストバライトでは珪肺症が報告されている。また、実験動物においても石英、クリストバライトで線維形成性があることが報告されており、そのほか、石英では自己免疫疾患、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性、溶融シリカで金属ヒューム熱のような回帰熱の報告がある。	※11	区分1(呼吸器)
酢酸	64-19-7	ラットに投与した試験で食道粘膜の慢性炎症がみられ、また、職業ばく露により、労働者が胸焼けや便秘などの消化器症状の訴え、また、労働者の横断研究においてばく露を受けた労働者が対照に比べ慢性咳嗽、胸部ひっ迫、鼻カタル、副鼻腔炎の有病率が有意に高かったとの報告もあるが、いずれもデータ不足で分類できない。	※5 ※11	分類できない

GHS分類判断

急性毒性	✓	発がん性	✓
皮膚腐食性/刺激性	✓	生殖毒性	×
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	✓	吸引性呼吸器有毒性	×
呼吸器感受性または皮膚感受性	×	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	✓
生殖細胞変異原性	×	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	✓

× - データ無し(分類できない)、または区分に該当しない
 ✓ - 分類済み

セクション12 環境影響情報

生態毒性

成分名	CAS番号	エンドポイント	試験期間 (時間)	生物種	試験結果	出典 / 区分
アルミニウム (金属)	7429-90-5	EC50	96h	魚類	> 100 mg/L	※11
			72h	藻類または他の水生植物	> 100 mg/L	※11
			48h	甲殻類	> 100 mg/L	※11
		NOEC	21d	甲殻類	0.076 mg/L	※11
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	EC50	48h	甲殻類(淡水)	2,200 mg/L	※1
		NOEC	21d	甲殻類(淡水)	12.5 mg/L	※1
酢酸	64-19-7	EC50	48h	甲殻類	65 mg	※13 区分3

残留性・分解性

成分名	CAS番号	残留性	分解性	出典
酢酸	64-19-7	データ無し	高 (BOD : 74%)	※16
BOD(生物化学的酸素要求量)				

生体蓄積性

成分名	CAS番号	生物濃縮性	出典
酢酸	64-19-7	低 (LogKOW : 0.17)	※16
LogKOW(オクタノール/水分配係数)			

土壤中の移動性

成分名	CAS番号	移動性	出典
データ無し			

セクション13 廃棄上の注意

廃棄方法

製品/容器/包装の廃棄方法	<ul style="list-style-type: none"> ・容器は空であっても化学的な危険有害性を有していることがある ・器具の洗浄に用いた洗浄液は排水路に流出させないこと ・器具の洗浄に用いた洗浄水は排出する前にすべて回収し、適切な処理を施す必要がある ・廃棄する場合は廃棄物の処理を管理している都道府県・市区町村に問い合わせること
----------------------	---

セクション14 輸送上の注意

陸上輸送(ADG):	危険物輸送規制対象外
航空輸送(ICA0-IATA / DGR):	危険物輸送規制対象外
海上輸送(IMDG-Code / GGVSee):	危険物輸送規制対象外
MARPOL 付属書II 及びIBCコードによるばら積み輸送:	該当しない
MARPOL 付属書V 及びIMSBCコードに従い、バルク輸送:	データ無し
ICG規範に従い、バルク輸送:	データ無し

セクション15 適用法令

労働安全衛生法

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	名称等を通知すべき危険物及び有害物	法第57条、施行令第18条
アルミニウム (金属)	7429-90-5	名称等を表示すべき危険物及び有害物	法第57条、施行令第18条 別表第9
		名称等を通知すべき危険物及び有害物	法第57条の2、施行令第18条の2別表第9
		リスクアセスメントを実施すべき危険有害物	法第57条の3
		危険物・発火性の物	施行令別表第1 第2号
		作業環境評価基準	法第65条の2、第2項
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	名称等を表示すべき危険物及び有害物	法第57条、施行令第18条、別表第9
		名称等を通知すべき危険物及び有害物	法第57条の2、施行令第18条の2、別表第9
		リスクアセスメントを実施すべき危険物及び有害物	法第57条の3
酢酸	64-19-7	名称等を表示すべき危険物及び有害物	法第57条、施行令第18条 別表第9
		名称等を通知すべき危険物及び有害物	法第57条の2、施行令第18条の2別表第9
		リスクアセスメントを実施すべき危険有害物	法第57条の3
		皮膚刺激性有害物質	労働安全衛生規則第594条の2
		危険物・発火性の物	施行令別表第1 第4号
		腐食性液体	労働安全衛生規則 第326条

じん肺法

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
アルミニウム (金属)	7429-90-5		法第2条、施行規則第2条別表粉じん作業
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9		法第2条、施行規則第2条別表 粉じん作業

癌原性物質

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	シリカ (結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	労働安全衛生規則第577条の2

消防法

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
		指定可燃物(可燃性液体類)	
アルミニウム (金属)	7429-90-5	第2類可燃性固体、金属粉	

海洋汚染防止法

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
重質炭酸カルシウム	1317-65-3	有害液体物質 (Z類物質)	施行令別表第1 炭酸カルシウム
酢酸	64-19-7	有害液体物質 (Z類物質)	施行令別表第1

外国為替及び外国貿易管理法

該当成分名	CAS番号	該当項目	備考
アルミニウム (金属)	7429-90-5		別表第1の14項 別表第1の4項
シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)	7631-86-9	キャッチオール規制	別表第1の16項

セクション16 その他の情報

出典元

- ※1 製造者のSDSから得られた値
- ※2 CERIHazardデータ集 / 化学物質評価研究機構(CERI)
- ※3 ECHA登録物質/欧州化学物質庁(ECHA)
- ※4 JACC(Joint assessment of commodity chemicals) Report / ECETOC(欧州化学物質生態毒性及び毒性センター)
- ※5 Patty's Toxicology
- ※6 EPIWON(WHO Information Network for Epidemics Suite)
- ※7 SIDS(Screening Information Data Set) / OECD(経済協力開発機構)
- ※8 CICAD(国際化学物質簡潔評価文書)
- ※9 IARC(国際がん研究機関)
- ※10 IUCLID(国際統一化学物質情報データベース)
- ※11 ACGIH(米国産業衛生専門家会議)
- ※12 IRIS(Integrated Risk Information System) / 米国環境保護庁(EPA)
- ※13 ECOTOX(Ecotoxicology Database) / 米国環境保護庁(EPA)
- ※14 RTECS(Registry of Toxic Effects of Chemical Substances) / 米国国立労働衛生研究所(NIOSH)
- ※15 JSOH(日本産業衛生学会)
- ※16 NITE(製品評価技術基盤機構)
- ※17 DFGOT(化学物質の産業衛生に関する評価文書) / ドイツ学術振興会(DFG)
- ※18 GESTIS(有害物情報データベース) / ドイツ同業者労災保険組合
- ※19 REACH(EU 化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規則)登録情報
- ※20 NTP(National Toxicology Program) / アメリカ合衆国保健福祉省(HHS)
- ※21 JFCFA(FAO/WHO Joint Expert Committee on Food Additives) / 食品添加物専門家会議
- ※22 HSDB(Hazardous Substances Data Bank) / 米国国立医学図書館(NLM)

出典元 / 作成者

最初の発行日

08/31/2020

SDSバージョンの概要

バージョン	改訂日	更新されたセクション
2.12.2.1	04/26/2021	規制の変更
2.12.3.1	05/13/2021	規制の変更
2.12.3.2	12/28/2022	分類, 環境, 成分, 品名
2.12.3.3	01/20/2023	成分
3.00.0.1	10/01/2025	フォーマット整理、成分名を変更(NITE基準)

免責事項:

この安全データシート(SDS)の情報は発行時における当社の入手可能な情報に基づいて正しいものであると考えております。記載されている情報は安全な取り扱い、使用、保管、輸送、および廃棄のためのガイダンスとしてのみ設計されており、保証、品質仕様とはみなされません。使用から生じる損失、損害または傷害に関する賠償責任を引き受けるものではありません。本SDSの記載内容は指定された特定の材料のみに関連しており、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質との組み合わせでの使用においては有効ではない場合があります。これらの理由からお客様がご自身の用途に製品が適合しているかご自身で評価、判断頂く事が重要です。また(株)隆成コミュニティはJ Bワールド社よりアジア総代理店に任命されておりますが他地域での商品の使用につきましては地域毎の代理店様にお問い合わせください。

成分名、CAS番号欄が空欄の物につきましてはコピー商品防止の為、またSDSでの通知義務が無い為、空欄とさせて頂いております。
より正確なSDSが必要な場合は弊社HPのお客様お問い合わせフォームよりお問い合わせください。